これらは，精神的に離乳し，独立をとげていくうえで，必然的にみられるものであり，教師や親は，この時期の特質を正しく理解し，対処していくことが望まれる。そのためには，その発生原因や背景を，十分に理解することが大切である。

① どのような原因が考えられるか。

ア 欲求の変形

理想を求め，自分の思うように行動したいという欲求に対して，それをはばむものが生ずると，不満がつのり，反抗や攻撃といった問題行動へと発展しやすくなる。

親のしつけ，注意，教師の指示などに疑問を示し，批判や否定をするが，その反面，それを失うことは，つらいことであり，不安におちいる。否定しながらも認めてもらいたいという自己主張と，それに見合うだけの自己統制力とのバランスのくずれが，情緒的な不安定へと追いやり，反抗や攻撃を強めることになっているのである。

イ 独立への強がり

子供から大人へと成長する過程では，周囲の人たちの保護に依存している状態から抜け出し，一人前の大人として振るまい，周囲にも認めさせようとする気持ちが働く。それは，自己中心的な考えや，行動となってあらわれる場合もあるが，これが極端になって，周囲の制約や批判を受けると，反抗や攻撃的な言動となってあらわれる。

ウ 弱い耐性

幼い時から，甘やかされ放題に育てられると，青年前期になって，心理的に強い圧力がかかった場合，短絡的な反応をおこし，強い反抗や乱暴が起こりやすい。

「おもしろくない」,「いいなりにならない」などから，器物をこわしたり，乱暴をはたらいたりするのは，耐性の弱さに起因するところが多い。

いずれにおいても，自分が他人から認められないという不満や，家庭や学校における位置・役割が安定していないところからくる疎外感が強く，そのはけ口として，反抗や乱暴などの形での自己主張が行われることである。